

# 25 胆嚢摘出術における腹腔鏡下手術の割合

## 指標の解説

- 胆嚢摘出術には、主に開腹による胆嚢摘出術と腹腔鏡下胆嚢摘出術がある。
- 腹腔鏡下胆嚢摘出術は、開腹胆嚢摘出術と比較して、死亡率、合併症、手術時間については差がないが、入院期間と術後の回復期間が短くなる。
- 特に、合併症を伴わない胆嚢結石・胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の割合が高ければ、医療の質が高いといえる。

分子：腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した患者数  
 分母：胆嚢炎を伴わない胆嚢結石（ICDコード：K802）で胆嚢摘出術を施行した患者数  
 ※ 同時に複数術式を併施した患者は除外する。

参考値：80.4%  
 分子：分母のうち、腹腔鏡下胆嚢摘出症例  
 分母：18歳以上の胆嚢炎・胆石症に対する胆嚢切除症例（周産期、産褥期、出産は除外）  
 （引用元：京都大学大学院医学研究科医療経済学分野作成「QIP QualityIndicator/Improvement Project医療の質の指標2015年版」）

